

# 第一回 古文単語テスト

年組	番	氏名	点
----	---	----	---

一．下線部の単語または表現を現代語訳しなさい。（語形は問わない）

- |   |      |  |
|---|------|--|
| (1) 門強くさせ。〈284〉                                   | (1)  |  |
| (2) ゆゆしき身に侍れば、(若宮ガ)かくておはしますも、いまいましう、かたじけなくなむ。〈77〉 | (2)  |  |
| (3) 昔、男、初冠して、平城の京、春日の里に、しるよしして、狩りに住にけり。〈181〉      | (3)  |  |
| (4) 野分のまたの日こそ、いみじうあはれにをかしけれ。〈329〉                 | (4)  |  |
| (5) ここに侍りながら、御とぶらひにもまうでざりける。〈168〉                 | (5)  |  |
| (6) 早う御文も御覽ぜよ。〈154〉                               | (6)  |  |
| (7) げにただ人にはあらざりけり。〈43〉                            | (7)  |  |
| (8) 木霊などいふ、けしからぬかたちも現るものなり。〈280〉                  | (8)  |  |
| (9) 皇胤なれど、姓たまはりて、ただ人にて仕へて、位につきたる例やある。〈310〉        | (9)  |  |
| (10) 忠岑も禄たまはりなどしけり。〈162〉                          | (10) |  |
| (11) はかなき御なやみと見ゆれども、かぎりのたびにもおはしますらむ。〈268〉         | (11) |  |
| (12) 道もさりあへず立つ折もあるぞかし。〈196〉                       | (12) |  |
| (13) 三月のつごもりなれば、京の花、盛りはみな過ぎにけり。〈118〉              | (13) |  |
| (14) 親王、大殿ごもらで明かしたまうてけり。〈176〉                     | (14) |  |
| (15) 十一月、十二月の降り凍り、六月の照りはたたくにも、さはらず来たり。〈190〉       | (15) |  |

- (16) 四月に内裏へ参りたまふ。〈169〉  
(17) 心地惑ひにけり。〈70〉  
(18) 持仏据ゑたてまつりて行ふ尼なりけり。〈73〉  
(19) 祇王もとより思ひまうけたる道なれども、さすがに昨日今日とは思ひよらず 〈141〉  
(20) 何とにかあらむ、かきくらし涙こぼる。〈198〉  
(21) つたなく弾きて、弾きおほせざれば、腹立ちて鳴らぬなり。〈224〉  
(22) かくて、翁やうやう豊かになりゆく。〈46〉  
(23) やんごとなき女房の、うちそばみてゐ給へるを見給へば、わが思ふ人なり。〈187〉  
(24) 帝よりはじめ奉りて、大臣公卿みな悉く移ろひ給ひぬ。夜に仕ふるほどの人、たれか一人ふるさとに残りをらむ。〈258〉  
(25) むげにいろなく、いかにのり給ひけるぞ。〈298〉  
(26) その（弘徽殿の）御方に、うちふしといふ者の娘、左京といひて候ひけるを、源中将かたらひてなむと、人々笑ふ。〈188〉  
(27) 墨染めのお姿あらまほしう清らなるも、うらやましく見たてまつり給ふ。〈75〉  
(28) いかでさることは知りしぞ。〈50〉  
(29) しばし見るもむくつけければ、住ぬ。〈289〉  
(30) こなたはあらはにや侍らむ。今日しも端におはしましけるかな。〈102〉